

① 基礎的知識、実践的知識の修得と技能への応用

生命維持管理装置を取り扱う上で必要な基礎的知識（医学、工学）と実践的知識（生命維持管理技術学、医用安全管理工学）を修得し、技能として医療現場で実践・応用できる能力を獲得する。

② チーム医療を実践するための協調性

医師、看護師をはじめとする医療スタッフと協力して治療や医療安全確保に従事できる協調性を備えている。

③ 問題解決能力と意欲

医療現場における諸問題、課題を臨床工学的な見地から抽出し、解決しようとする意欲・能力を有し、医療の発展と社会に貢献できる人材としての資質を備えている。

④ 医療人としての責任感・使命感

医療を受ける全ての人に対しての尊厳を常に忘れることなく、相手の立場となって考え理解するよう常に努力し、自らが持つ能力を使命感、責任感を持って最大限に注力する姿勢を身につける。

⑤ 自己研鑽による自主的な姿勢

日々発展し高度複雑化する医療技術を常に注視し、自己研鑽を継続することで、自主的に臨床工学分野の研究に取り組み、医療技術の発展や諸問題解決に寄与していく人材としての資質を身につける。